

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4072100284		
法人名	株式会社 山田檜木郷(やまだひのきのさと)		
事業所名	グループホームやまだ桜の郷 あやめ荘		
所在地	福岡県嘉麻市下山田715番地1号		
自己評価作成日	令和3年2月5日	評価結果確定日	令和3年3月6日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ヘルスアンドライツサポートウリずん
所在地	福岡県直方市知古1丁目6番48号
訪問調査日	令和3年2月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

素晴らしい自然に囲まれた環境の中で安心して暮らして頂けるように利用者様の個々の思いを大切にし一人一人のペースに合わせその人らしい生活が送れるようまた温もり溢れる家庭環境に近づけるようスタッフ同一丸となって支援を行っています。また今月より常勤看護師もスタッフに加わり利用者様の健康管理面の充実だけでなく、利用者様の意向や思いを聞き取りご家族と協力し合い協力医療機関との連携を取り心身機能の維持向上に向け努力して参ります。残念ながら現在新型コロナウイルス緊急事態宣言下、面会の全面禁止と利用者様、ご家族にとっても寂しい思いをされている状況です。そうした中電話による会話にて安心の分かち合いをしていただいています。平常時に戻ればご家族の皆様との交流の場を施設の行事などで増やすとともに地域との繋がりを大切にし地域に信頼して頂ける施設作りに努めます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ユニット毎に新しい管理者が就任し、理念の「人としての尊厳を守る」を新たに認識し入居者への支援に努めたいと、全職員に印刷した理念を配布している。1日を通した入居者の行動や状態から、職員の気づきや感じたこと、ヒントやアイデアを新たなフローシートに具体的に記載し、本人の言動の中に隠れた思いを把握できるよう努め、入居者が喜ばれたり、感謝されたりすることを職員は励みとしている。コロナ禍で家族との面会や外出もままならないが、広い敷地内から見渡せる季節ごとの山や川、手作りの庭の畑などに癒されながら、敷地内の散歩で気分転換をしている。地域行事や地域交流の再開を待ちながら運営推進会議の充実を図り、定期的な訪問診療等は詳細な看護記録が整備され、専門医への受診は家族とともに職員が同行し適切な医療受診を支援するなど、地域に密着したサービスの展開が期待できる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

ユニット／事業所名 **グループホームやまだ松の郷 あやめ荘**

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念並びに運営理念を事務所、リビング内に掲げ常に職員が目にして意識付けし実践できるよう心がけている。	ユニット毎に新しい管理者が就任し、玄関やリビングなど目に付く所に掲げた理念を新たに認識し入居者への支援に努めたいと、全職員に印刷した理念を配布している。	理念の具現化に向けて、身近な目標の設定や実践を期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナウイルス問題が終息し平常時に戻れば例年通り併設のデイサービスと協力し、地域の慰問の方や地域の方々を招いて春祭り、夏祭り、敬老会、クリスマス会などを開催する。また地域の催事などで獅子舞や和太鼓の巡行をして頂き利用者様との交流を図る。	自治会加入はしていないが、一斉清掃や公園清掃に参加し、盛大な春祭りや夏祭りで交流を重ねてきた。管理者たちは、地域との新たな関係づくりが必要だと話している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現在のところは電話にての問い合わせに応じているところです。コロナ終息後は施設見学の希望者があれば積極的に活用して頂きたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は当面中止しており緊急性の事項があれば電話及び文書での通知にとどまることである。コロナ終息後は利用者の全家族に通知し行政、自治会長、民生委員、ホーム代表、施設長、管理者で開催しホームより行事や現状報告、今後の計画を説明し、ご家族からの質問、ご意見、ご要望にお応えする。	運営推進会議で報告すべき状況の内容はまとめているが、議事録の整備はない。今年1月、行政からの達示もあり、議事録を整備し、玄関などで公表予定である。	運営推進会議設置目的に鑑み、各委員や家族への報告書の配布で意見交換し、一層のサービス向上を期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の担当者に実績やケアサービス等の取り組みを報告、相談しながら協力関係を築くよう取り組んでいる。	市の担当者に月初め空き室情報を提供したり、市からは感染情報のメールが届くなど協力関係づくりに取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	管理者およびスタッフは日頃よりどのような事柄が「身体拘束」となるのかその具体的な行為を話し合い、熟知すべく心掛けている。しかし、転倒防止のため、いくつかの居室内にセンサーを取り付けたり、居室窓にはスロープがないため、開閉の制限はしているが、玄関、中庭への通用窓は開放している。	身体拘束に関する内部研修を行い、拘束のない支援に努めている。居室での転倒防止に家族の了承を得てセンサーを使用したり、転倒の状況判断や抑止力として共用空間の居間や廊下にモニターを設置している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員の意識向上を図るために、Gミーティング等での問題定義や職員間での話し合いの中で虐待が起こらないよう又見過ごされる事のないよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	関連する資料を利用し理解を深めるよう努めている。	現在、成年後見制度や日常生活支援制度の活用者はいない。随時活用を支援するため、パンフレットの整備や職員研修を検討している。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約を結ぶ前に利用者ご家族と面接し話し合いを行いご理解と納得を図っている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情担当職員を設けてその都度意見や相談を受けたり意見箱を設置し運営に反映できるようにしている。	入居料は振り込みがほとんどで、コロナ禍に配慮し、家族が持参されたおむつや着替えなどは職員が玄関先で預かっている。家族にはこまめに現状を報告し、ご意見を伺うようにしている。	面会もままならない状況の中、ホームの行事や感染予防対策、個々の入居者の暮らしぶりや写真の送付で、家族等の意見のさらなる表出を期待します。
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	常日頃より意見要望を聞くようにしG. ミーティングの際職員間で分かち合い代表者管理者はそれらの意見要望を反映できるよう努めている。	月1,2回ユニット毎のミーティングを行い、入居者の情報交換や意見交換を行っている。日頃の朝夕の申し送りでも意見は出しやすく、職員は入居者が喜ばれたり、感謝されたりすることがうれしいと話した。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	施設長、管理者は職員一人一人を大切に思い常に笑顔と向上心を持って働けるようにコミュニケーションをとり業務改善に努め職員の意見要望を代表者に提案することにより更なる就業環境、条件の整備に取り組むようにしている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	ハローワーク、求人紙ネット求人により職員募集を行っている。現在30代から60代まで幅広い年齢層の職員を配置、更には70代のパート勤務者を配置しており世代による勤務者の考え方なども考慮し、お互いが良い刺激となれるように配慮している。又職員個々の能力を発揮して生き生きと働けるようにコミュニケーションをとるよう努めている。	昨年は職員の入れ替わりはあったが、夜勤専従の職員を含め、20代から70代の職員が就労している。休憩室で昼休みを取り、希望休や子育て中の職員の突然の休みも叶えられるなど、勤めやすい環境を整えている。資格取得が奨励され、学習費用や資格手当の支給もある。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	Gミーティングも出来ていない実情であり反省点は多いが職員も充実してきており今後はGミーティングを定期的に執り行い人権教育・啓発活動に積極的に取り組んでいきます。	コロナ禍で外部研修は管理者研修のみが開催されている。日頃から、理念の「人としての尊厳を守る」の具現化に努め、人権教育、啓発活動に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員間のコミュニケーションを大切にし常に情報提供を行い職員個々のレベルアップにつながるよう研修、トレーニングを受ける機会を作り職員間で分かち合うように努めている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	CM連絡会、地域密着型サービス連絡会等に参加し、多職種や他事業所との連携、交流を図ることで得た情報を職員間で分かち合いサービスの質の向上を図っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時初期における信頼関係づくりは最重要課題と捉え、利用者の不安や要望に対して、職員一人一人が同じ意識を持ち、利用者やご家族と接し、その思いを丁寧に聞かせてもらうことで個々のアセスメント作成につなげ、より信頼関係を築くよう実践すべく努力している。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用者の性格や日常の動向、また食事の好き嫌いやアレルギー等の情報とともに、生活に関わっての要望等を聴取させて頂きながら、ご家族の不安の解消とともに、ご意見やご要望があればいつでも申し出てほしい旨を伝え、ご家族の安心に努めている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用契約までの流れの中で、利用者にとって更に有益な介護の在り方を念頭に置き、ご本人様とご家族が今一番必要としている支援（サービス）を模索しつつ、関係医療機関や他事業所との連携を図り、必要に即した支援対応に努めている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者のこれまでの生活スタイルを尊重し、生活（衣食住や趣味）に関わって、「出来る事」「したいこと」「したいけど、出来ない事」等を見極めながら、例えばテーブル拭きなどの家事の一部を利用者に無理のない範囲でお手伝い頂き、職員は「ありがとうございました。助かりました。」の言葉を添えるよう努めている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ渦中の現在電話によりご家族と密に連絡を取る事によって、共にご本人を支える支援を提供している。平常時に戻れば施設でのイベント情報、外出計画を早めにお伝えし出来るだけご参加いただきご本人との絆が良好となるよう支援する。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	何時でも電話のできる環境を保持し、現在の状況でもご家族をはじめとするなじみの方とのこれまでの関係が継続できるよう支援に努めている。	馴染みの美容室への外出もできず、毎日来訪されていた家族もあったが、この1年は制限されている。ホームの携帯電話を活用して家族との関係継続を支援してきたが、携帯電話の廃止もあり、今後の対応を検討している。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクレーションや職員の意図的な会話により利用者同士の会話が生まれ、孤立感や孤独感を感じることを無いたよう努めている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用終了後も、これまでの関係性を大切にし、必要に応じて本人、家族様からの相談や情報提供依頼への対応、支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時に、ご本人及びご家族から伺っている希望、意向を大切に、また日々の暮らしの中で変化していくご本人の希望にも柔軟に対応できている。又職員間での情報の共有に努めている。	一日を通じた入居者の行動や状態から、職員の気づきや感じたこと、ヒントやアイデアを新たなフローシートに具体的に記載し、本人の言動の中に隠れた思いを把握できるよう努めている。	多くの記載事項の整理で、記載時間を短縮し、さらなる思いや意向の把握を期待します。
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にご本人やご家族からのこれまでの生活歴や生活環境の情報によりアセスメントシートを作成、職員が情報を共有し利用者の生活が継続できるよう努めている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	まいにち、個々の介護記録、看護記録を作成し更には職員が気づいた事等を申し送りノートに記録し、出勤時には先ずそれらを閲覧しつつ検討し個人の現状の把握、共有を図っている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	CM、管理者、看護師を中心に介護員、利用者、ご家族、連携の医療関係者と話し合い、現状に即した介護計画が作成できている。	包括的自立支援プログラムのケアチェック表やフローシートを導入し、各ミーティングの際に情報共有をしている。フローシートやケアチェック表の細かな記載をもとにモニタリングを行い、介護計画の見直しに繋げている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護日誌、看護記録、業務日誌、申し送りノート等に個々の状態や状況を記録することにより、職員間の情報の共有、把握と共にケアプランの作成や実践に活用している。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設しているデイサービスの機能訓練の器具を使用したり、レクレーションに於いてカラオケ設備を利用するなどグループホームでは提供し難いサービスも柔軟に提供している。時々日光浴を兼ねて庭の散歩をする。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現在のところ何一つできない現状ではあるが、計画を立てて春の花見、夏は花火をしたり、秋には紅葉をめぐる紅葉狩り等ご家族同伴にて是非とも実行したいものである。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に2回の協力医療機関の訪問診療(吉原医院)がある。また本人やご家族の希望される医療機関への受診など安心して適切な医療が受けられるように支援している。	訪問診療と訪問歯科診療が定期的に行われ、看護記録に詳細が記載されている。専門医への受診は家族とともに職員が同行し適切な医療受診を支援している。	
33		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	この度担当看護師が決まり、連絡ノートを活用し情報交換を行いケアに取り組んでいる。また当施設の看護職員・医療機関の看護師には24時間電話対応をお願いしており、早期での受診や事故対応が出来るように努めている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者の入院時には、ご本人の状態を把握するとともに、安心できる入院生活が送れるように、また早期の退院が出来るようにご家族と入院先の医療関係者と緊密に情報交換するよう努めている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	いずれは訪れるであろう重度化や終末期については入居時にご本人とご家族に説明を行っている。訪問診療をお願いしている吉原医院、また嘉麻赤十字病院との強い繋がりが、緊急時には即時受け入れ可能である。	昨年11月入院され、退院時食事がとれず施設入所後ほどなく逝去されている。ご本人も家族も最後までホームでと望まれていたが、入居時やその後の話し合いで納得されての退居であった。今後も経口摂取できるぎりぎりまで、ホームでの生活を支援予定である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	看護師の指導によりAEDの使用法を学んだり、利用者の急変や事故発生時に備えて、応急処置や対応の指導を受けている。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回昼夜想定での防火訓練を実施しており、スプリンクラーの設置、避難経路の確保など利用者が安全に避難できるようにしている。また、避難場所として地域の協力により公共施設の使用も可能である。	6月、12月の火災避難訓練は、今年は消防署への連絡だけで実施している。AEDの設置もあり、平屋づくりで広い敷地に恵まれ出入口が多いため、福祉避難所として申請を検討している。	昨今の自然災害状況から、食料などの備蓄の検討や備蓄台帳の整備、持ち出し書面の検討をお願いします。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員全員が利用者に対しかけがえのない大切な愛すべき人であり、生活を共にする者という立場で接しており、ご本人が居心地が良い環境づくりに努めお一人お一人に丁寧に対応している。	入居者が居室でふと漏らされる思いに寄り添い、対応している。「高齢者の尊厳を守る」ため、個々の思いを大切にすよう、家庭的な温かな雰囲気での日々の支援に努めている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定が出来る様に声掛けには十分配慮し、ゆっくりと会話できるように心掛けている。表情には特に気を付けており、出来る限り利用者の意に沿えるよう心掛けている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者のペースを大切にし希望に沿って支援できるように努めている。例えば起床や食事、入浴等は、時間に幅を持たせ本人のペースで生活できるように支援している。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ヘアカットについては出張美容サービスを活用している。また、日常の整髪用のヘアブラシをリビングにセットし、入浴後の更衣についてはご本人のお気に入りの服を着て頂ける様に心掛けている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	美味しそうな盛り付け、季節感を取り入れたり、一部の方には準備や片づけを手伝ってもらっている。また、個々の好みに応じて工夫し、美味しく、楽しく食事をして頂くよう心掛けている。	好みや季節を考慮し、毎月1日は赤飯の日、お正月やひな祭りは行事食などを楽しんでいる。顎関節の症状のある入居者の食事はミキサーにかけられ、見守りや介助で完食する入居者がほとんどである。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一週間ごとに献立を作成し栄養が偏らないようにしている。好き嫌いや疾患に応じた摂取量の違い等を配慮し、調理や盛り付けを工夫している。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科往診を週一回受けいる。毎食後の口腔ケアを欠かさず行い、夜間帯は義歯を除菌し清潔を保持している。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	日々の暮らしの中で個々の排泄パターンを把握し、こまめに声掛けをすることにより失禁を減らし、トイレでの排泄が継続できるよう支援している。	排泄の自立されている入居者もあるが、車椅子や歩行介助の入居者もあり、声かけや誘導でトイレでの排泄を支援している。リハビリパンツなどを家族が持ち込まれる方もあり、失敗のない支援に努めている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給をこまめに行い、ラジオ体操、リハビリ体操で身体を動かすスムーズな排泄ができるよう支援している。また食事にも気を配るようにしている。医師からの指示がある利用者は下剤の服用を行っている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	利用者の体調や受診状況により個々のペースに合わせてながら時間に余裕を持って声掛けしながら入浴支援に努めている。現在は週2回と少ないが4名様ずつを毎日入浴出来ないか調整中である。	週2回を目途に入浴を支援している。シャワー浴の入居者もあり、入浴を億劫がられる方は、トイレ誘導してそのまま浴室にお連れしたり、時間を置いたり、声掛けを工夫するなどしている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の居室は常に室温調整に気を配り、リビングと自由に行き来ができるので利用者はご自分の体調やその時々状況に合わせて休息出来る様に支援している。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬について質問等あれば、その都度丁寧に説明し理解を得よう努めている。また、看護記録に服薬内容を記録しており、ご家族様もいつでも閲覧できるように努めている。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	畑作業(を見学する)、カラオケを楽しむ、映画(DVD)鑑賞、読書など、個々の生活歴を参考に、楽しみ、気分転換を図るよう努めている。珈琲タイムを取り入れて。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	自慢の中庭は常時開放しており、小さな「あやめ菜園」があり季節の野菜を栽培している。また洗濯物を干したり、時には散歩を楽しむなど思い思いに行動できるよう支援している。コロナ終息後は積極的に外出計画を立て実行に移すよう支援したい。	季節のドライブが入居者の急変で叶わなかった。敷地内から山や川、木々や花々を眺めながらの散歩で、気分転換を図っている。今後、外出計画を検討している。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には事務所で保管しているが、ご本人やご家族のご要望があればご本人の管理能力を鑑みて個人で保管してもらっている。他の利用者様も必要とあらばすぐにお渡しできるように配慮している。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話、手紙は希望があればその都度ご利用いただけるように努めている。但し電話に関しては頻度、時間帯を考慮しご家族に無理の無いように配慮している。またご家族からの電話は取り次ぐようにしている。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	外窓を大きくとることにより、日当たりも良く、四季の移り変わりを楽しめるようにしている。また玄関でお香を焚く事により利用者様にリラックスして頂ける環境を提供している。	大きな掃き出し窓から明るい陽光がさし込むリビングは季節のひな人形が飾られ、廊下やトイレなどは床がリフォームされ、さらに明るく清潔になっている。室温や換気が配慮され、入居者は大きなテーブルを囲んで笑顔で寛がれている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	基本的にはリビングが中心となり利用者が談笑されたり、テレビ鑑賞されたり、童謡の曲に合わせて歌ったりと思い思いに過ごせるよう支援している。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時、利用者と家族にご相談し、タンスやテーブル、仏壇等、これまでご利用になっていた馴染みの家具類を配置し、ご本人が居心地良く過ごせるよう支援している。	大きな掃き出し窓から陽光がさし込み明るい居室は、清掃が行き届いていた。ベットと大きなクローゼットが設置され、自宅から持参した家具や加湿器が配置されるなど、居室毎の設えを支援している。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者が使用する場所や物には、分かりやすい表示をしている。ご本人が出来ることは多少の時間がかかっても見守りながら行って頂いている。		